

矢口 史靖

VS

邦画を変える男たち

古厩 智之

この対談は二月四日「仙台インディペンデント・シネマ・デイズ」で来仙された古厩矢口、両監督の「トーク・ライブ」のもよみを採録したものである。お二人の熱い映画話に聞き手のあがた森魚氏もおもわずエキサイトし、アツという間の一時間であった。

構成・横沢行監

古厩君は映画を撮るきっかけはなんでした？

古厩 高校三年の時、受験勉強するのがイヤで、みんなで思い出を残そうと友達たちと初めて8mm映画を撮ったんですが、もつと簡単に出来ると思って作り始めたところが全然うまくいかなくて、「こんなムズカしいことやったらんねえ」なんて言ってやめちゃったんです。当然勉強してないんで浪人しまして他の大学に入りましたが、ある日、あの時の映画の事を思い出しまして急ぎょ方向転換して日大に入りました。あの時手軽に映画を作ってた失敗したからこそ、また映画をやりたいなあって思ってたんだと思います。

「映画は誰にでも作れるか」という今回のテーマ、貴氏はどう思いますか？

古厩 誰でも作れると思います。
矢口 え？打ち合わせと違うじゃないですか。古厩 いやいや持って、小論文の書き方という本に「まずは否定からはじめろ」と書いてあるじゃない(笑)。しかし！(ここで強く入る)僕も最初は誰にでも作れると思った。僕はいつも映画を撮り始めないと何をやりたかったのかつかめないタイプで、そういう事

矢口『作り続けていきながらやりたいことを』

みつけていくことが大切だと思います』

したら初めて上映会をするんでもいいと思うんです。自主映画はお芝居と違ってあらかじめ日時と場所を決めなくてもいいのでその点は楽なんです。逆に締切りがないとタラタラやってきりがない。だから僕は何日ぐらいで撮れるとか大体あたりをつけてから作るようにしています。

お二人の新作は？

矢口 今度の四月から撮影に入る予定なんです。『シークレット・ガーデン』という映画を撮ります。銀行員の女の子が、自分だけが分かる大金のありかを知ってしまったこととんでもない努力家になるというお話です。全然目立たず笑ったことのない女の子が、初めて自分の為に努力を重ね、人が驚くような成果を成し上げてしまったという話です。多分、来年の春頃に公開になると思うんですがこちらでも上映したいと思っています。

ヒロインは決まってるの？

矢口 まだです。まだですけど、『静かな生活』の佐伯日菜子ちゃんにぜひともお願いしよう。今、説得中です。

古厩 僕の方はまだ考えていて、三日後に映画会社の人と話をしなきゃいけないんですが、まだあまりまとまらずで……



矢口史靖 1977年、東京都生まれ。大学在学中に『静かな生活』を撮る。2000年、『静かな生活』でデビュー。2002年、『静かな生活』でデビュー。2003年、『静かな生活』でデビュー。2004年、『静かな生活』でデビュー。2005年、『静かな生活』でデビュー。2006年、『静かな生活』でデビュー。2007年、『静かな生活』でデビュー。2008年、『静かな生活』でデビュー。2009年、『静かな生活』でデビュー。2010年、『静かな生活』でデビュー。2011年、『静かな生活』でデビュー。2012年、『静かな生活』でデビュー。2013年、『静かな生活』でデビュー。2014年、『静かな生活』でデビュー。2015年、『静かな生活』でデビュー。2016年、『静かな生活』でデビュー。2017年、『静かな生活』でデビュー。2018年、『静かな生活』でデビュー。2019年、『静かな生活』でデビュー。2020年、『静かな生活』でデビュー。2021年、『静かな生活』でデビュー。2022年、『静かな生活』でデビュー。2023年、『静かな生活』でデビュー。2024年、『静かな生活』でデビュー。2025年、『静かな生活』でデビュー。



古厩智之 1978年、東京都生まれ。大学在学中に『静かな生活』を撮る。2000年、『静かな生活』でデビュー。2002年、『静かな生活』でデビュー。2003年、『静かな生活』でデビュー。2004年、『静かな生活』でデビュー。2005年、『静かな生活』でデビュー。2006年、『静かな生活』でデビュー。2007年、『静かな生活』でデビュー。2008年、『静かな生活』でデビュー。2009年、『静かな生活』でデビュー。2010年、『静かな生活』でデビュー。2011年、『静かな生活』でデビュー。2012年、『静かな生活』でデビュー。2013年、『静かな生活』でデビュー。2014年、『静かな生活』でデビュー。2015年、『静かな生活』でデビュー。2016年、『静かな生活』でデビュー。2017年、『静かな生活』でデビュー。2018年、『静かな生活』でデビュー。2019年、『静かな生活』でデビュー。2020年、『静かな生活』でデビュー。2021年、『静かな生活』でデビュー。2022年、『静かな生活』でデビュー。2023年、『静かな生活』でデビュー。2024年、『静かな生活』でデビュー。2025年、『静かな生活』でデビュー。

古厩『自分でカメラを回さなくなってきたから』

作品がよくなったんですよ』

8mm映画にありがちな自己満足的なところが納められないってこと？

古厩 そうですね。自主映画では自分でカメラを回す人が多いじゃないですか。僕も始めは自分でカメラを回していたんですが、自分でカメラを回さなくなってきた作品がよくないって思ってます。はつきりと他に誰かがいることで共同作業だと意識出来るようになったからだと思います。スタッフを説得しないと撮り始められないという現状から「観せる」を意識したんだと思います。

矢口君は結構早くからカメラを持ってたりした？

矢口 いえ、いまだに8mmカメラを一度も買ったことがないんです。日常からカメラを回そうとしたこともなくて、「今日はこういうネタを一日で撮ろう」と決めてから、初めて機材をそろえて役者を呼んでという作り方をしました。でもやっぱり映画は観てもらわないとつまらないですよ。僕はいつもどこかで上映することを念頭において撮っています。観せる機会があって初めて作るんじゃないかなって思います。なんか、宇宙人っぽい友達がいいたら頭割って「宇宙人死体解剖フィルム」とか言って、秘密に撮ったようにみせて「そんなフィルムがあるらしいぜ」なんて暗流して「それは観たい」と誰かが言い出

古厩 そう、それをどの時点でスイッチングするかが難しいんですよ。どこまで本当にやりたいこと考えていられて、どこから誇大な妄想の発想に切り換えるか、そこが難しい問題なんです。二日前ぐらいまでは大丈夫なんですけど、ですから、すいません。今はまだ何も言えないんですけど……

最後に一つ、映画を作るにあたってお金を動かせるその人の資質、ついてはお二人の秘めている才能を、誰かが感じてお金を引っ張ってくるという関係をどういう風に感じているか、一言づつお願いします。

矢口 まず8mmでもビデオでもいいから一番自信のあるものを作っちゃってください。それをなるべく多くの人に観せて、反応を示して

古厩 矢口さんが言ったことにあまりつけ足すことはないですね。「金なんて後からついてくるんですよ」と思って、いつもやっているんですが、僕も矢口さんと同様、グランプリをもらって奨学金も貰ってトントン拍子で来たんでお金の苦労したことがないから言えることだと思っんです。自分がどれくらい夢中になれるかでお金もついてくると信じています。

古厩君は？

古厩 矢口さんが言ったことにあまりつけ足すことはないですね。「金なんて後からついてくるんですよ」と思って、いつもやっているんですが、僕も矢口さんと同様、グランプリをもらって奨学金も貰ってトントン拍子で来たんでお金の苦労したことがないから言えることだと思っんです。自分がどれくらい夢中になれるかでお金もついてくると信じています。